



2019年度 EDU-Port公認プロジェクト



# ウガンダ共和国小学校体育指導資料 策定支援事業

2020年8月28日

文部科学省 EDU-Portニッポン トピックセミナー

日本体育大学 体育学部 教授  
白旗 和也

# 全体の流れ

1. 自己紹介
2. 活動概要
3. プロジェクトの実践
4. 成果・課題
5. 今後の展望



# ウガンダ共和国へのつながり

日本体育大学 体育学部 教授

○体育科教育・教職教育

文部科学省 スポーツ青少年局(現スポーツ庁) **体育科教科調査官**

※学習指導要領の作成、周知・管理



日本の体育科教育を導入したい国が激増

JICA(青年海外協力隊)体育分野技術顧問

○体育分野の隊員の選考・配置, 国際開発の戦略



ウガンダ共和国を拠点にアフリカでの体育科教育の成功モデル

## 2. 活動概要

### • 背景

Sport For Tomorrow (スポーツ・フォー・トゥモロー) 事業

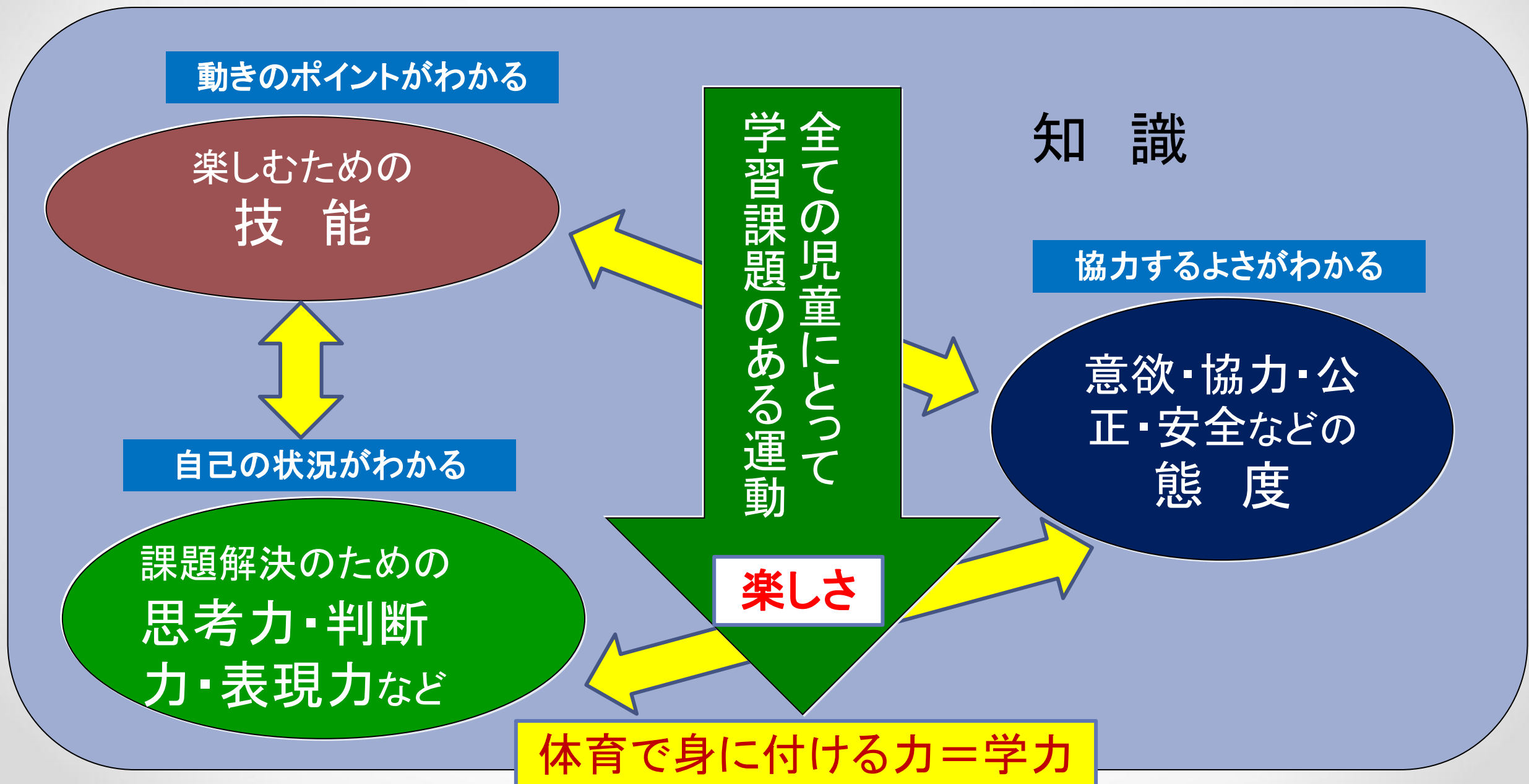
日本は2020年までに世界100 か国1,000 万人以上の子ども達にスポーツの喜びを届ける

### • 目的

ウガンダ共和国の小学校体育の指導資料策定・教員への研修を通して、体育の普及の支援



# 日本の体育の指導内容(3つの内容)は



全ての人のために、豊かなスポーツライフを

運動やスポーツの価値を知り、生涯にわたって自分に合った運動との  
関わり方で末永く親しむ人

運動の楽しさや喜び



運動との多様な関わり(特性)

課題解決(達成感)

# ウガンダ共和国の体育の状況

## 課題の発見

子どもたちの動きが開発されていない

- ◆ 用具がほとんどない
- ◆ 1クラスの数が多い
- ◆ 教員のモチベーションが低い

アフリカの子どもは運動が堪能だろう

座学偏重の教育

体育の意義・効果の理解

指導方法を知らない

指導法の理解・実践力の育成

教師が100人変われば、子どもは10000人以上が好影響を受ける

## ・プロジェクト内容 体育授業がスタートするための支援

### 1. 小学校の教員が使用する指導資料の作成

➡ 日本（理想）とウガンダ（現実）の教員が協力し、  
実現可能な指導資料の作成を目指す

### 2. 体育指導の研修（指導資料の活用含む）の実施

➡ 現地ワークショップや日本での研修で授業実践指導





# 3. プロジェクトの実践

## 体育指導資料の作成

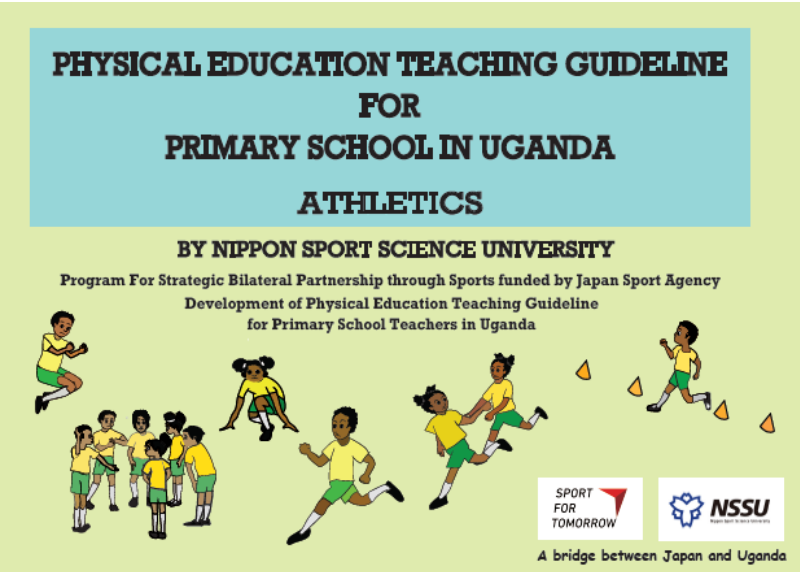
陸上運動・ボール運動領域  
 指導資料作成プロジェクト（広島県・滋賀県・徳島県の小学校教員）

Unit: Athletics  
 Topic: Sprint and Relay

**General background:**  
 Sprint and relay in middle class in primary school enable learners to experience comfortability and fun through cooperating and competing each other, running rhythmically, and passing baton. Cooperating to solve problem competing with others generate interaction with others naturally. Besides, admitting opinion of others and respect competition, they acquire the learning of how to communicate with others. In addition, learners are able to experience fun and joy of running rhythmically, which helps them to acquire the basic movement and skill. In the process, learners identify their own tasks and enhance problem-solving skill through arranging activities and the way of competition order to get the better movement by themselves.

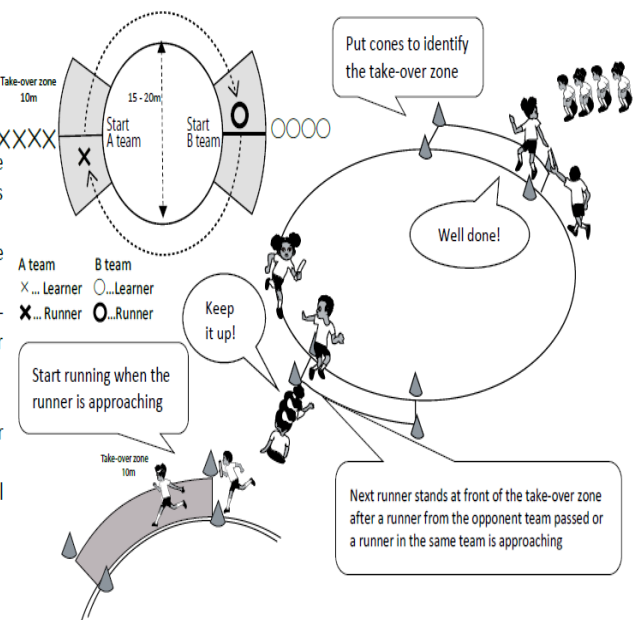
**Learning outcome:**

Values Affective development	Life skills Cognitive Development	Subject Competences Psychomotor development	Language Com
Assertiveness • Working actively on the exercise Cooperation • Following the rules and getting along with anyone Acceptance • Enjoying the activities by admit the result of competition and other's opinions	Effective communication and interpersonal relationship • Presenting one's thought to others Creative thinking • Arranging one's activity and the way to compete to get a certain movement	Running • Running up to the end rhythmically Physical operation • Passing the baton at relay	• Understanding used words in exercise and properly Eg) Relay, baton, race



5. and decide a running order in opposite side of the circle with a baton stand behind a start line clockwise on call, meanwhile the others course near a start line. When a runner is approaching to a start line, the runner is approaching to a take-over zone. The runner tries to pass the baton within the take-over zone (to go beyond) to the second runner. The second runner starts running as the first runner did. The group whose final runner finished first is the winner.

\*1 Depending on the number of learners, the group size will be varied



# 3. プロジェクトの実践

## 体育指導研修の実施

### ウガンダにおける教員向けワークショップ

パイロット  
(3校)

体育の意義・内容（講義・演習）  
授業づくり（実技を通して内容の理解・授業の工夫）

### 日本における教員向けワークショップ（7名来日）

滋賀県の小学校  
(2校)

体育の意義・内容の復習（講義）  
授業づくりの観察（授業を通して内容の理解）

日本体育大学  
都内小学校

指導案づくり（演習）  
模擬授業の実施（実践を通して内容の理解・授業の工夫）  
授業の省察（協議会により、授業改善）



ウガンダで教員向け  
ワークショップ



# 4.プロジェクトの成果・課題

## 成果

### <指導資料の作成を通して>

- ・日本とウガンダの体育指導の相互理解（**互いの良さの発見**）
- ・ウガンダN Cの内容整理と実現可能な指導の提供（**効果的、効率的な指導**）

### <体育指導研修を通して>

- ・教育としての体育の価値の共有（**体育の指導内容（技能だけでなく）の理解**）
- ・単元計画・授業細案の作成（**事前の準備・計画の仕方の理解**）
- ・模擬授業を通じた授業実践（**体育指導の実践的な理解**）



リーダーの育成 → 学内や近隣の学校への**普及活動**

## 4. プロジェクトの成果・課題

### 課題

- ・ウガンダ教員のモチベーションや指導力の維持・向上
- ・ウガンダ現地と連携した持続可能な普及の方法

一過性な事業実施に終わらないために



育ち始めた芽をどのように伸ばすか

## 5. 今後の展望（事業期間中に）

- ❖ 指導資料の送付・オンラインワークショップを通じた指導方法の伝授（DVDの作成含む）
- ❖ 各教員の学校での実践のフォローアップ
- ❖ 実践報告会の開催  
（他のEDU-Port事業とのコラボの可能性）
- ❖ 普及に向けたコンサルティング  
（ワークショップやミーティングを通じた学内外への普及）

# 日本の体育科教育の国際化への可能性

- ✓ 体育の3つの指導内容に基づく，子どもの力量形成
- ✓ 日本型研究授業（教師の協働的な学び）の国際有用性
- ✓ 教材の工夫を生かした環境に応じたグローバルな視点

# 最後に

- 現地の実態や思いからスタートする
- 目的の明確化，関係性の構築



日本の知識や技術と現地の良さを  
活かした活動

